

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年2月12日 (2016.2.12)

【公表番号】特表2015-500720(P2015-500720A)

【公表日】平成27年1月8日 (2015.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2015-002

【出願番号】特願2014-548089(P2014-548089)

【国際特許分類】

A 6 1 M 5/24 (2006.01)

A 6 1 M 5/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/24

A 6 1 M 5/00 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成27年12月11日 (2015.12.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 7】

図 4 は、デジタル・ディスプレイ 5 2 および P C B A 5 4 の両方が省かれた、図 3 に示す電気機械的システムの配置を示している。図 4 に示すように、ドライブ・トレイン 5 0 は、一次薬剤を含む第 1 のカートリッジ 5 8 および二次薬剤を含む第 2 のカートリッジ 6 0 から用量を排出するように作動する。図 4 でも示すように、第 1 および第 2 のカートリッジ 5 8、6 0 は、最も遠位置にあるストッパを有する空の状態を示されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 1】

図 5 a および 5 b に示すように、そのような動き検出器 1 0 a は、第 1 の独立したドライバ 6 6 からの作動上および位置上のフィードバックを薬物送達デバイスの主制御ユニット 2 または制御ユニット 4 に提供するために利用されるため、有益になり得る。たとえば、第 1 の独立したドライバ 6 6 に関して、好ましい動き検出器 1 0 a は、第 1 のモータ・ピニオン 9 2 の使用によって達成される。この第 1 のピニオン 9 2 は、第 1 のモータ 7 0 の出力シャフト 9 4 に動作可能に連結される。第 1 のピニオン 9 2 は、第 1 の伝動配置 7 2 の第 1 のギアを駆動する回転伝動部分 9 6 を備える（たとえば図 4 を参照）。第 1 のモータ・ピニオン 9 2 はまた、複数のフラグ 9 8 a ~ b も備える。この第 1 の動き検出器 1 0 a では、第 1 のピニオン 9 2 は、第 1 のフラグ 9 8 a および第 2 のフラグ 9 8 b を備える。これらの 2 つのフラグ 9 8 a ~ b は、モータが駆動されたときにモータ出力シャフト 9 4、故に連結された第 1 のピニオン 9 2 が回転するにつれて、これらが第 1 の光学エンコーダ 9 0 を通り抜けるようにモータ・ピニオン 9 2 上に位置する。